

枕崎市総合振興計画審議会・地方創生総合戦略審議会 令和7年度 第1回審議会 議事要旨

開催概要

日時：令和7年7月25日（金）9:30～12:00

場所：枕崎市民会館 第1会議室

出席者：18名（出席14名、Web出席1名、代理出席3名） 会議成立

主な議事内容

1 市長あいさつ

第6次総合振興計画および第2期地方創生総合戦略の最終年度にあたり、次期計画策定の重要性を強調

将来の庁舎建設、公共施設の在り方、都市計画、防災、教育、交通、環境、デジタル技術など多岐にわたる課題への対応を呼びかけ

2 委員紹介・審議会の位置づけ説明

審議会の法的根拠と役割を事務局から説明

過半数出席により会議成立を確認

3 会長・副会長選出

会 長：揚野委員（枕崎市漁業協同組合 統括参事）

副会長：吉満委員（枕崎高校校長）、福島委員（鹿児島水産高校校長）

4 計画・戦略・スケジュール説明

事務局より今後の審議会開催予定と策定スケジュールを説明（年内に3回開催予定）

5 審議事項（初回は現状説明中心）

(1) 枕崎市の現状と課題

(2) 現行計画（第6次枕崎市総合振興計画）の取組状況

(3) 地方創生2.0について

(4) Well-Being 指標の活用

(5) 次期計画（第7次枕崎市総合振興計画）の方向性

6 質疑応答・意見交換

(委 員) 人口動態について、地域間での人口の取合いの認識がある。対策の検討のため、近隣市の人口動態を含めてわかりやすく整理してもらいたい。

(事務局) 周辺自治体の人口動向と現状分析を加え改めてお示しする。

(委 員) 関係人口の定義したうえで現状と目標を今後教えてもらいたい。

(事務局) 国から示された地方創生 2.0 の内容に、ふるさと住民登録制度がある。関係人口を数値化し、可視化していくことになる。枕崎市とどのように繋がりを持っていたかとも考えていかなければならない。今回の計画でも、関係人口の獲得というものが非常に大きな課題となる。

(委 員) 人口減少と少子化が問題である。近隣市と比較した人口減少の実態を示して欲しい。また、近隣市は学校再編が進んでいる。本市も早急に考えなければならない。

(事務局) 周辺自治体と比較した人口動態については改めてお示しする。学校の再編については、総合振興計画にも方針を示していくことになる。

(委 員) あるべき姿を考える一方で、テクノロジーの進化についても考えなければならない。「スマートシュリンク」という言葉があるが、日本全体の人口が減るなかで、人口が減ることを悪いことだと捉えず、枕崎に生まれて良かった、かわって良かったと思えるような方向に知恵を絞っていくことも重要である。

県立高校で、漫画学科が設置された例があるように、着眼点を変えることで良くなる方法を考えることができる。関係人口については、国策でふるさと住民登録制度が始まる。枕崎市が第2住民票として選ばれるよう、国の制度設計も踏まえて現状分析と目標を考えていくことが必要である。新しいことに早くチャレンジできるような雰囲気づくりも重要である。

人口減少はピンチではなくチャンスという発想も大事である。幸せを追求するというのは日本でも研究が進んでいる。その考え方を取り入れた自治体も増えている。少子高齢化についても、どうチャンスに変えていくかという発想の転換が必要である。チャレンジを楽しんでいく、その応援団が関係人口となるのではないか。

(委 員) 近年、本市のふるさと納税の寄附額が大きく変動している理由は何か。

(事務局) 寄附額が減少とした理由の1つとしては、返礼事業を始めてから一気に寄附額が伸びるなかで、さらに推進するための足元の体制を固められていなかった。令和6年度からはふるさと納税推進係を新たに設置し体制構築を図っており、寄附額は回復傾向にある。

(委 員) 資料によると、水産業の純移輸出額が0（億円）となっているが、市内での消費にとどまっているという考え方になるのか。

(会 長) 流通体系により、統計上、水産業の純移輸出額は少なくなっている。

(委 員) 危険空き家や下水道未接続に起因する住環境への影響も、行政が中心となって改善して欲しい。

(事務局) 住環境対策は大きな課題である。庁内でも議論をしている。総合振興計画に施策を盛り込んでいく。

(委 員) 市内にある高校は、市の人口維持に貢献できていると思う。高校としても頑張っていくので市の協力をお願いする。

7 その他

- ・効果検証：これまでの戦略の進捗・成果を文書で確認予定
- ・次回開催：第2回審議会は9月下旬～10月上旬予定
- ・今後の進め方：次回以降は委員の意見を反映した計画骨子の検討へ